

有縁の皆さんでお読み下さい

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

悲しい時も、苦しい時も、嬉しい時も、南無阿弥陀仏の大慈悲は身にしみる

お念仏の 家族に なるう

毎月 25 日発行  
お寺のかわら版  
じゅんしょうじほう  
純正寺報

しょう しき しょう こう  
青色青光 No.328



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵（漢見覚恵）  
〒 522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829  
メールアドレス：purity-temple.since1499@nifty.com

九月十八日（月・祝）

午前 10 時から正午まで  
午後 1 時半から 3 時半まで

お勤め  
午前 『仏説阿弥陀経（和讃入）』  
午後 『正信念仏偈・和讃』

秋季彼岸会

話 彦根市薩摩町善照寺住職  
ご法 本願寺派布教使

真野 順之 師

「浄土真宗の救いのよろこび」

※お車でご参拝の際、本堂脇駐車場・第二駐車場が満車の場合は、恐れ入りますが市民会館跡のコインパーキングをご利用ください。また、本堂で昼食が必要な方は、午前のお勤めの後にお弁当の注文を承ります。

YouTube 純正寺チャンネル LINE 純正寺公式アカウント 純正寺公式ホームページ



上記の QR（二次元）コードを、スマホの QRコードリーダーで読み込んでください。

9月25日（月）  
10:00~12:00 13:30~15:30  
こんき常例布教  
法話：高島市浄願寺 釋迦 浩爾 師

純正寺の法要は「YouTube」で、常朝事は「facebooklive」で、それぞれ生配信でも録画でもご参拝・お聴聞していただけます。

# 住職法話 我聞如是

われかくのごとくきく

## 真宗寺院に未来はありますか？②

くピンチをチャレンスにするためにはく

### 形ばかり、名ばかり

先月号で、葬儀の急激な変化から鑑みると、寺院が消滅するかもしれないという危機があると言いました。しかし、この危機は寺院や私たち僧侶や門徒が見失ってしまった本分を今一度問い直し、現代社会の中であるべき姿に変化していくチャンスであると私は受け止めています。

では、私たちが見失っている本分とは何なのでしようか。今から約六十年前、親鸞聖人七百回大遠忌法要が本願寺はじめ全国の寺院でお勤めされていた頃、当時の真宗僧侶と門徒の状況が「形ばかりの僧侶、名ばかりの門徒」と厳しく言

かりの門徒」と厳しく言い当てられました。

それは、浄土真宗の教えに基づいて生きていないという、根本的な僧侶と門徒の姿勢に対する痛烈な批判でした。そして、それから六十年経った今、この根本的課題が改善されたかという、大いに疑問が残ります。今もなお、この「形ばかりの僧侶、名ばかりの門徒」という課題は、私たち真宗僧侶と門徒にとって根本的な課題です。

### 念仏者の生活信条

「自信教人信（じしんきようにんしん）」という言葉が

あります。これは、親鸞聖人が「七高僧」と仰がれた尊い出家者の中のお一人、中国の善導大師が著しくださった『観経疏（かんぎょうしよ）』というお書物の中のお言葉です。

この言葉の中には、私たち真宗僧侶・門徒の教えに基づいた生活信条があらわされています。すなわち「自信」とは、私自信が阿弥陀仏のさとりの世界「浄土」を、己の限りあるいのちの確かな行方だと、疑いなくいただいてお念仏を聞き称えつつ生きるということ。次に「教人信」とは、この疑いなく浄土に向かつて限りあるいのちをお念仏と共に生きる人の姿が、自然に周りの人々を引き寄せ、同じように浄土に向かつてお念仏と共に生きたいと思わせるといことです。

親鸞聖人は、九十年の生涯をお浄土に向かいお念仏にぶれずに生き抜かれました。なぜ、そのようなぶれないお念仏の人生を歩まれたのかというと、それはお師匠である法然聖人との出会いがあつたからでした。

親鸞聖人がその九十年の後生涯の中で、法然聖人と共に過ごされた時間はわずか六年。親鸞聖人二十九歳、法然聖人六十九歳の時から、親鸞聖人三十五歳、法然聖人七十五歳の時までです。なのに、親鸞聖人が法然聖人と別離の後五十年以上もの間法然聖人から承られた浄土真宗の教えに生きていかれたのは、法然聖人の巧みな弁舌に感化されたこと以上に、法然聖人のただひたすら純粋にお念仏に生きられた姿に直接ご覧になった結果でしょう。正しく、

両聖人は名ばかりではない形ばかりではない、自信教人信の念仏者としての人生を生き抜かれたのです。

### 念仏者の名告り

それに対して、今日の私たちの生き様はいかがなものでしょうか。私は、四半世紀にわたり得度(僧侶になる)習礼(しゅらい)や、その事前研修会に関わっています。この習礼や事前研修会を受講する人の多くは、住職の子や孫たちです。いわゆる「寺院後継者」の若者です。この若者たちに、私は必ず「何故、得度して僧侶になろうと思うのですか」と尋ねます。すると、多くの若者から返ってくる言葉は「別に得度したいわけではない。親たちに休みがたくさんある学生の時に

取得しておきなさいと言われたから」というものです。

すると、私は重ねて尋ねます。「では、得度すると法名を授与されるけれど、法名って何だと思えますか」と。すると「死後の名前です」と答えが返ってくることもありますが、この答えを聞くと、私はとても残念に思えます。何故ならば、法名は死後の名前などではなく、お浄土に向かつて今を生きる念仏者の名告りだからです。

浄土真宗の寺院に所属する僧侶・門徒は、多く何代も前から同じ寺院に所属し続けています。先祖代々、すなわち世襲しているという事です。世襲は、昔からの慣れ親しんだ人間関係をもたらず反面、その惰性が世代間の相続を怠惰なものとし、その宗教と私の間

にある大切な関係性が相続されなくなるようです。この世襲による、自信教人信ではない「形ばかりの、名ばかりの」私たちの生き様こそが、重要な課題です。

### 寺院は「サンガ」

私たちは、浄土真宗の信者です。浄土真宗という言葉は、現在は宗派の名称として主に使われている言葉ですが、元は念仏を聞き称えながら生きる念仏者の生き様をあらわした言葉です。すなわち、阿弥陀仏のさとりのはたらきである「南無阿弥陀仏」の名号の力により、不思議にも阿弥陀仏のさとりの世界であるお浄土に往生させていただき、阿弥陀仏と同じさとりに至らせていただくのだと、疑いなくいただいております。聞き称えらるのちを生きる。

これが、浄土真宗という言葉の本当の意味です。

どれだけその教えが尊く素晴らしくても、その教えに実際に生きる人がなければその教えは「絵に描いた餅」になってしまいます。

私たち僧侶・門徒が、浄土真宗の教えを己の生きるよりどころといただいて、ひたむきに「南無阿弥陀仏」と聞き称えて生きる時、その姿はまるで磁石のように周りの人たちを引きつけ、共にお浄土に向かい行くのちを生きる人のつながりである「サンガ」が自然に形成されるのです。そしてこの念仏サンガこそが、これからの時代に必要な本来の寺院の姿なのです。

では、この浄土真宗に生きるということは、具体的にはどのような生き方なのでしょうか。次号に続く



# 純正寺 9月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



今月のエコキャップ 一、五八〇、九二二個

今年の夏も厳しい暑さが続きます。喉の渇きには、ペットボトル飲料ですね。今月も、七一八一個をお預かりしました。

## 帰敬式・納骨「本山・本廟参拝」

2日(土) 8:00~17:00

年齢性別は問いません

法名をまだいただいております。お骨がまだお家にある方。法名は真宗門徒として生きる証。お骨は納めるべき場所に。是非このご勝縁を。

## ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

3日(日)・17日(日)

16:00~18:00

小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。マスクの着用は自由です。

## キッズサンガ「ほとけの子ども会」

9日(土)・30日(土)

10:00~12:00

就学前・小・中学生対象

『らいはいのうた』のお勤めの後、仏典童話の読み聞かせと楽しい遊びタイムです。

## 彦根組後援「てられんけん」

10日(日)

14:00~17:00

年齢・性別は問いません

門徒推進員養成の連続研修会。第8回目は、正信偈草譜と親鸞様のご生涯を学びます。

## ヨガ風ストレッチ「びはーら体操」

12日(火)・26日(火)

10:20~11:30

年齢・性別は問いません

お香とインド音楽の中でのヨガ風ストレッチで、強くて柔らかな身体と心を作りましょう。

## みんなの食堂ビハーラ

14日(木)・28日(木)

17:00~19:00

年齢・性別は問いません

前半は宿題・自主勉、後半は夕食。多世代が集まって、楽しく学んで美味しくいただきます。

## 「月例法話座談会」

21日(木)

14:00~16:00

年齢・性別は問いません

日常の「何故？」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

## 世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

24日(日)

18:00~20:00

年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

## こんき常例布教

25日(月)

10:00~12:00.13:30~15:30

年齢・性別などは問いません

所属寺の枠を超えて、法友ができる法座です。法話は、高島市浄願寺の釋迦浩爾師です。

## 彦根組真宗講座「三帖和讃に学ぶ」

27日(水)

13:30~16:00

年齢・性別は問いません

彦根組主催の、門徒対象の連続講座。今回は、三帖和讃の中から『高僧和讃』を味わわせて頂きましょう。

## 住職が聴きます「よろず相談」

随時、年齢性別は問いません

生きることが辛くなる前に、早めに気軽にご相談下さい。

相談予約専用電話番号は

090-7874-2849

相談予約専用メールアドレスは

namo-yorozu@docomo.ne.jp

## 清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:50

年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。Facebook で生配信もします。